

「肝炎マッピング」のバージョンアップに関する研究

研究分担者 渡邊英徳 東京大学 大学院情報学環教授

研究要旨

佐賀県内における肝炎治療の情報をわかりやすく提示する「肝炎マッピング」をバージョンアップし、Windows、Mac、iOS、Android のウェブブラウザで快適に動作することを確認した。

A. 研究目的

佐賀県内における肝炎治療の情報をわかりやすく提示する「肝炎マッピング」をバージョンアップし、多様化する情報端末での閲覧に対応させることを目的とする。

B. 研究方法

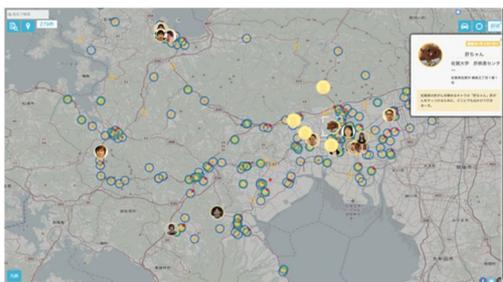


図 1 肝炎マッピング

筆者らは、2017 年度までに「肝炎マッピング」(図 1)を開発・公開し、運用してきた。このコンテンツはウェブ公開されており、PC あるいはスマートフォンで閲覧可能となっている。

地図を表示する基幹ソフトウェア「Cesium」は月に一度バージョンアップされ、新機能が追加されるほか、API Key が変更されるため、コンテンツ側で対応する必要がある。また、特に Android 端末の多様化は著しく、さまざまな画面サイズ・端末性能に対応させる必要がある。

そこで筆者らは、月ごとに Cesium のライブラリをバージョンアップさせ、Windows、Mac、iOS、Windows の各 OS のウェブブラウザにおける表示確認を行なった。また、Google Chrome の Developer Mode におけるエミュレータ機能を用いて、さまざまな画面サイズにおいてコンテンツのズームイン・アウト、検索、地図切り替え、ムービー表示、ストリートビュー表示、現在地表示の各機能が問題なく動作するか否かについて確認した。

エラーが生じた場合には JavaScript 及び CSS を修正し、正しく表示・機能するように改修した。

C. 研究結果

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 1 日の間、継続的に前述した表示確認・動作確認・改修を行なったところ、本稿執筆時点において、各 OS・端末でコンテンツが正常に表示・動作することを確認済みである。

D. 結論

継続的に表示確認・動作確認・改修を実施することによって、「肝炎マッピング」を多様化する情報端末での閲覧に対応させることができ、本研究の目的が達成された。

情報端末の多様化は年々進んでおり、現在、筆者らが想定している PC、スマートフォン以外のプラットフォームが登場する可能性もある。今後は、そうした新しい情報閲覧方法をキャッチアップし、コンテンツのバージョンアップを図っていく必要があると考えられる。

E. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

F. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

